
認知症に対する市民の意識変化
— 認知症市民公開講座アンケート調査から —

長谷 一郎¹⁾、 切東 美子²⁾
(1)はセクリニック 2)摂津ひかり病院)

摂津市は人口8万人の都市であり、他市と同じように高齢者人口は徐々に増加し続けている。それに伴い認知症患者も増加しており、摂津市では高齢介護課が中心となって2015年より年1回認知症市民公開講座を開催していた。新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため、2020年から2022年の間は開催されなかったが2023年には再開された。開催にあたっては、毎回参加者にアンケート調査を実施していた。そこで、我々はアンケート調査から読み取れる認知症に対する市民の意識変化に着目した。また認知症に対する市民への啓発についての実際や市が行っている施策と合わせて、さらに開業医としての役割はどこにあり、市民からの期待に応えるにはどうあるべきかを考察した。結果、認知症の相談ができるかかりつけ医の重要性が毎年増加してきており、かかりつけ医が専門病院や地域包括支援センターとの有機的な連携を持つ必要があることが明らかになった。